

# 情報交流シンポジウム (第23回) 大学キャンパス移転と都市戦略

建築CPD 3単位

主催：日本建築学会都市計画委員会 キャンパス・リビングラボラトリ小委員会  
2019年9月2日 (月) 13:30~16:30

少子化の進展により、近年特に首都圏の私立大学を中心に都心へのキャンパス移転やキャンパス統合などを行い、質の高い学生の確保など大学の生き残りをかけた動きがめざましい。

一方で、都市側も大学を誘致することで都市のイメージを刷新し、新しいライフスタイルに適合した都市空間づくりに大学が果たす役割を期待している。

海外でも盛んに大学キャンパス誘致によってブラウンフィールドを持続可能な都市空間として転換させる都市再開発手法が展開されている。

国内でもキャンパス移転を行うプロジェクトが多く見られ、話題となっている。大学のキャンパス移転を大学にとっても立地都市においても利益を持たらすものとして成立させるためには、多様な視点でプロジェクトの検討をする必要がある。

そこで、本年のシンポジウムでは、キャンパス移転のプロジェクトに最近関わっていらっしゃる設計者をはじめとして、キャンパス計画を立地都市との関係を踏まえて捉えてきた実践者、さらには、この分野で研究的な蓄積を蓄えているキャンパス・リビングラボラトリ小委員会のメンバーによる討論によって、

「都市戦略において大学キャンパス移転はどのように寄与できその時の大学キャンパスの姿はどのようなになるのか？」を明らかにしていきたい。



## ■プログラム:

開会挨拶・主旨説明：小篠隆生 (主査：北海道大学)  
プレゼンテーション (20分×4名)

1. 「学都金沢」構想がもたらす大学と地域の新たな関係 水野一郎 (金沢工業大学教授)
2. 京都市立芸術大学のキャンパス計画から得られるもの 藤原徹平 (横浜国立大学Y-GSA准教授)
3. キャンパス計画における都市デザインの視点 倉田直道 (工学院大学名誉教授)
4. 大学移転が都市に持たらす意義 斎尾直子 (委員：東京工業大学准教授)

ディスカッション 60分 コーディネーター：安森亮雄 (委員：宇都宮大学)

質疑応答

まとめ：太幡英亮 (幹事：名古屋大学)

司会：脇坂圭一 (委員：静岡理科大学)

■会場：IT ビジネスプラザ武蔵 (JR金沢駅徒歩10分)  
金沢市武蔵町14番31号 <https://www.bp-musashi.jp/>

■参加費：会員 1,000円、会員外 1,500円、学生 500円 (資料代含む/当日会場払い)

■定員：50名

■申込方法：催し物名称、参加区分 (会員・会員外・学生 [会員・会員外])、氏名・勤務先・所属・同住所・同電話番号を明記し、下記までお申し込みください。17:00より会場付近で懇親会 (立食形式・4500円程度予定・学割あり) を開催しますので、合わせて参加の可否を明記ください。申込締め切り：8月23日 (金) まで。

■申込・問合せ：脇坂圭一 (静岡理科大学)

申し込みフォーム <https://forms.gle/JKPkDxv1xPc1HQoNa>

または E-mail: [wakisaka.keiichi@sist.ac.jp](mailto:wakisaka.keiichi@sist.ac.jp)

